

～山田賞～



深澤 拓也

略 歴

昭和42年12月26日生
平成6年3月 岡山大学医学部卒業
平成11年4月 岡山大学大学院医学研究科修了
平成6年4月 岡山大学医学部附属病院第一外科医員（研修医）
平成6年8月 国立岩国病院 外科研修医
平成11年11月 The University of Texas M. D. Anderson Cancer Center Department of Immunology, Postdoctoral Fellow
平成13年1月 University of California Riverside Department of Biomedical Science, Postdoctoral Fellow
平成15年6月 岡山大学医学部 客員研究員
平成15年11月 岡山大学産学連携研究員
平成19年6月 岡山刑務所医務課医師
岡山大学医歯薬学総合研究科非常勤講師
平成20年5月 岡山刑務所医務課医務課長
現在に至る

研究論文内容要旨

悪性胸膜中皮腫は現在、アスベスト公害病として社会問題化している予後不良疾患である。本邦における当該疾患患者は今後30年間に急増することが確実であり、新しい治療法開発が急務となっている。我々は、中皮腫に発現度が高く、正常胸膜で発現の低い新規遺伝子CRI1（CREBBP/EP300 INHIBITORY PROTEIN 1）に注目し、当該遺伝子プロモータにおける中皮腫特異的転写部位を解析、さらに当該転写部位を用いた自殺遺伝子発現型リコンビナントウイルスベクター：Ad-CRI1/Bidおよび制限増殖型リコンビナントウイルスベクター：Ad-CRI1/E1Aを開発した。Ad-CRI1/Bidは中皮腫細胞に特異的なプログラム細胞死を誘導した。またAd-CRI1/E1Aは中皮腫細胞内で特異的増殖しこれを死滅させる一方、正常胸膜細胞また、正常肺線維芽細胞内での増殖は抑制された。またこれらのウイルスベクターは中皮腫皮下腫瘍マウスモデルにおいて顕著な抗腫瘍効果を示した。本研究は、CRI1プロモータを用いた新規転写システムが、中皮腫治療型ウイルス製剤の創薬を可能とすることを示唆する。